

木田市長の



vol.86

山歩きの楽しみ

若い頃は、ほんとうによく走ったものでした。短距離よりもどちらかと言うと中距離、長距離が得意で、駅伝大会などを心待ちにしていたことを思い出します。しかし、残念ながら30才くらいの時、腰を痛めてから徐々に走れなくなっていました。そこで、最近ではもっぱら山の中や森の中を歩くことを楽しんでいきます。

と出会ってしまいました。考えてみれば、公務によりさまざまな場所に出向いたり、メディアなどに露出したりしているわけですから、当たり前と言えば当たり前のことではあります。ただ、わたしのことを知っている人が誰もいない所のほうが、なぜか落ち着いた気持ちになることも事実です。以前、伊勢の矢持(やもち)という所に出かけたことがありまして。平家の落人が住んだ里として有名で、山の中にあり、わたしも生まれてこの方一度も行ったことがない土地でした。

ここで来れば知った人はいないだろうと思いつながら山道を歩いていました。途中、炭焼きをしている人がいたので、道を尋ねようと近づいていつて声をかけてみました。ところがわたしの顔を見るなり、「どこかで見たような人やなあ。もしかしたら鳥羽の・・・」と。思わず絶句してしまい、新聞やテレビの威力を見せつけられた思いでした。最近では、山歩きやウォーキングをする人が多くなりまして。昔は、用もないのに山を歩いている人などあまり見かけなかったように思います。身体を健康に保つためには、運動をして筋肉をきたえると共に、余ったエネルギーを消費してしまうことが大切であると考え、人が多くなってきたのでしよう。

山歩きはこれらの効能があるうえ、更にわたしにとって、は弁当のおいしさをこの上ないものとしてくれるメリットもあります。おにぎり、卵焼き、そしてたくあんという簡素な弁当であつても、どこのレストランにも負けない昼食にしてくれます。お金もあまりかからず、健康によく、そして弁当がおいしい山歩きはすばらしいと思います。

あれから・・・ 2011年3月11日、東日本を襲った大地震から2年の月日が経とうとしています。被災地へは、鳥羽市からも多くのかたがたがボランティアや復旧活動に向かいました。復興に向け、国内をはじめ、世界中の人々から支援や、温かいメッセージが送られ、人を思いやる気持ちや「絆」を強く感じたことは記憶に新しいことと思います。被災されたかたがたは、家族や友人、住居や財産、思い出の品までも・・・この震災によって一体どれだけの大切なものを失われたのでしょうか。そんな中、今なお、仮設住宅ではたくさんのかたが

